

# LEADERSHIP CHALLENGE

## 大隈塾LCレポート vol.13

第2回大隈塾リーダーシップ・チャレンジは5月9日（土）10日（日）、鴨川自然王国で田植えを行いました。今回の目的は、

- (1)チームビルド
- (2)自然に触れ、五感を取り戻す
- (3)食に関して考え、食べ物の自給力をつける
- (4)ゆったりとした時間を過ごす

にありました。

大隈塾の四つの特徴である、

「ソーシャルネットワーク」

「哲学、信念、世界観」

「リーダーシップ」

「心技体」

のうちの「心技体」にあたります。

知識と経験の量に反比例して、体力と五感が衰えていきます。自然の中で、水と空気と土に触れながら、もともと備わっている感覚を取り戻し、左脳（＝論理性）と右脳（＝直感）と体幹を鍛え、闘うビジネスパーソンとしてのバランスを整えます。

=====

10:30に東京駅八重洲口に集合し、専用バスに乗ってアクアラインを通過して鴨川へ。「日本棚田百選」に選ばれている大山千枚田を左に見ながらさらに山を登り、12:00ごろに歌手の加藤登紀子さんが運営する鴨川自然王国へ到着。山小屋に荷物を置き（女性はログハウス）、着替えを済ませて持参した昼食を、これから苗を植えていく田んぼを眺めながら食べました。

学部の大隈塾ゼミの学生たちも合流し、総勢30名ほどが準備完了。かなりぎこちなく水田に足を突っ込み、よろよろしながら態勢を整え、王国の藤本博正さんと首藤武宏さんのご指導で田植えを始めました。

最初こそゆるやかなペースでしたが、次第に慣れてくるに従い、苗を植えていくともスムーズに動くようになり、40分ほどで小さめの田んぼでの田植えを終え、休憩を挟んでおよそ2倍、一反ほどの田んぼに挑戦。リーダーシップ・チャレンジの社会人受講生とゼミの学部生たち30人が



横一線に並んで田植えをする光景は壮観でした。

ちなみに作業面積は1反5畝、およそ1500平方メートル。

成果予定は9俵=540kgのコメになります。1人あたりのコメの年間消費量は約60kgですから、9人分にあたります。

=====

夜はバーベキュー。気温も落ちてかなり寒くなったので、焚き火を囲んで丸太の椅子に座り、お酒を楽しく飲みながら王国産の肉や野菜を焼いて食べました。

=====

翌朝は7:00から、近くの「がんこ山」（通称）に。昨年は大雪で倒れた木々や竹がところどころ道をふさいでいて、それらをナタで叩き斬りながら登り進んで行きましたが、今年はスムーズに進み、20分ほどで頂上に到着。頂上はほんの一人分の広さしかないため、交代交代記念写真を撮っていました。



下山しての朝食は、信じられないくらい大食になっていました。朝からの運動がそうさせたのか、あるいはシンプルにコメが美味しかったのか。ご飯茶碗3杯はみなさん食べていらっしゃいました。



9:00からはジャーナリスト高野孟さんの

講義「半農半X的な生き方」。山小屋の畳の上に座って寺子屋スタイルでの講義では、「農」と「農業」との違い、日本列島に住む人々が「農」とともにあった歴史、文化、風土などを振り返り、今いる自分たちの立ち位置とこれからの進路を考えるきっかけとなりました。

【特別講義】

講師：高野孟氏（ジャーナリスト）

テーマ：「半農半X的生き方」

・近代以降、日本は経済的に大きな発展を遂げ、人々の生活は以前と比べ物質的には非常に豊かになった。

・一方で文明の進歩とともに頭で考えることに重点を置くようになり、その結果頭以外で物事を感じ取るといった元来人間が持っていた動物的な能力は必要のないものとして軽視されるようになった。

・同様にこれまでその土地に合った形で醸成されてきたコミュニティも、経済発展と共に破壊されてしまった。この一見安定して見える現在の社会は、ふとしたきっかけで壊れてしまう脆いものになってしまったということが、東日本大震災を通じて顕在化した。

・今後は「人生二毛作」、つまり金銭的な豊かさのみを求めるのではなく、人の営みのベースとなるコミュニティを大切にした生き方を考えてみてはどうか。



以下、メンバーのレポートの抜粋です。

【特別講義】

=====  
印象に残っている高野先生の「能力を捨てて文明的になることが幸せであると錯覚してきている」という言葉は、2012年のブラジル リオデジャネイロ国際会議でウルグアイのムヒカ大統領が演説をした内容を聞いて共感し、感動した事を改めて思い出しました。

=====  
原発問題に対して、個人的には経済優先のために原発稼働もやむなし、という考えでしたが、実際に自ら田植えを行い、農村の風景を美しいと感じた後で講義を聞くと、飯館村や浪江町などの古き良き美しい農村が破壊されたことを非常に残念に思うようになりました。

=====  
「農業」と「農」は同じではない。「農業」は近代に出てきた概念で商売。「農」は人間の営みにあるベースとなるもの。縄文時代に「耕す」ことを始めた時にヒトから人間に変わった。日本は農業を破壊して都市を作ってしまった。このようなことをやっているのは世界で見ても日本だ

け。農業を破壊、つまりコミュニティーを破壊し、金に頼る生活にしてしまった。東北の震災で経験したように、都会では金がいくらあっても買うモノがなければ何にもならない。

ご紹介のあった、日本史を地域別に3つに分割して分析すると違った見方が出来るという点は、前回の出口さんの講義でご紹介があった源氏と平氏の勝敗はリーダーの采配ではなく、気候によるものというお話と併せて考えると、日本史を多面・多角的に捉えることの面白さを実感した。一つの事象を絶対とせず、様々な角度から物事を見ることの重要性について認識を新たにしました。

弊社は、消費者に対し「便利」を提供し、対価を得て業績拡大を図ってきた企業。高野さんの話からすれば、それが人間の能力を低下させているという指摘。「企業発展」と「人間の能力向上」は矛盾する話なのかと感じた。

農への回帰の重要性とともに、これまでの歴史では武力、経済力が強い国が世界の主導権を握り、「裕福な」国を築いてきたことを加味すると、単に農に回帰するのではなく、工業といかにバランスをとっていくかが重要だと感じた。

結局のところ便利さ・効率性の追求とリスク・モラルの優先度が重要であり、現実的な議論であると感じる。例えば、原発の話であれば、取り返しのつかないリスクを抱えたエネルギー源であり、同様に化石由来のエネルギー源も有限・環境に悪影響を与えるもの。長い将来で見れば、両エネルギーを早急に再生可能エネルギーに代替すべきことは皆分かっているが、現実にはなっていない。それは危険性は理解しているが、自分に降りかかる早急な危機ではないからである。エネルギー源に限らず、解決策を探る時に効率、利便性、経済的な尺度だけではなく、地理的・時間的な幅を持った視点を通じて考える尺度を持っていきたい。

第1回2回を通じて、各スピーカーとも「理念」が明確かつ異なる。1年を通じて、自分自身としてどのような考えを持てるか？葛藤していきたいし楽しみである。

「モノやサービスを買うことは自分の能力のアウトソーシング」というお言葉がとても強く印に残った。私自身も都会での生活の便利さばかりを求め、人間として、動物として大切な何か、生きる力のようなものを失っているのではないかと感じた。

【田植え】

=====

田植えをするのは初体験であり、田植えが始まる前に何故本リーダーシップ・チャレンジで田植えを行うのか、説明は受けたがいまいち理解が出来ずにいた。

だが、田植えをした後、高野氏の話を受け、自然に触れ、自らの手足で土に触れるという人間として当たり前のことを行う大切さ、また、単純に楽しい感情を持ち、価値観を醸成することが重要になると感じた。

=====

都市生活者にとって、自然と接点を持つことは、心と体をリセットするために非常に有益な方法であると感じました。

農耕民族である日本人にとっての原点は農村にあるという点が、理屈ではなく感覚で感じた点が印象的でした。

=====

半日だけの田植えでも、全員で同じことをすると、連帯感なるものがわいてくる気がした。

お米も野菜も、空気も美味しかった（ごちそうさまでした）。人間はかくあるべき、と思う。

朝の散策も、日常生活ではなかなか歩けない環境なので、楽しかった。身体を動かすことは気持ちがいい。

=====

土に触れ、山菜を味わうだけでも大変な幸福感が得られました。食事後に次の食事の準備をし、子供を産み育てるといふ、原始の生活に多少なりとも戻るといふ選択の価値にも気づくことができました。（ただし、若者にその意味が分かるかということやはりそれは難しく、ある程度の年齢になってからではないかとも感じています。歴史の勉強に対する興味も同様に思います。

=====

田植えをしたのは人生で初めての経験でしたので、純粹に貴重な時間でした。田んぼに足を踏み入れて、最初の1歩目を踏み出した時に予想以上に足が上がらず、土のパワーみたいなものを感じました。

=====

また、田植えではありませんが、現役の学生さんたちと話をする機会を頂けて、非常にありがたかったと感じています。

自分は採用部でないため、学生が入社してからしか接点を持つことが出来ません。今の若者達が企業や社会に何を期待し、また自分達が何をしたいのか、という生の声をリアルタイムで聴くことができたのは、大きな刺激になりました。

社員教育の参考とさせていただきます。（とても楽しい時間でした）

=====

泥んこになって楽しかった

=====

初めての田植え経験。土に触れる効果なのか精神的な疲れ（ストレス？）が取れることを実感。身体的には見た目以上にハード…。気づくと雑音が消え集中することができる。

無知な人間からすると「ただの田んぼ」に見えたが、知恵と工夫、自然の道理が詰まっており、「気づき」の連続であった。

チーム同士の連携、一体感醸成も重要。言葉より、やはり体験を通じて実感する効果は大きい。



大隈塾リーダーシップ・チャレンジレポート vol.13

2015年5月27日発行

大隈塾事務局（一般社団法人ストーンスープ）

村田信之 mura@ta2.so-net.ne.jp

169-0051 東京都新宿区西早稲田1-9-19 アーバンヒルズ早稲田207

tel:050-3558-7527 mail:ookuma\_school@stonesoup.tokyo